

### (3) 鶴見緑地の現況

#### 1) 花博の主要8施設の現況

花博開催時の施設のうち、存置する施設として「鶴見緑地基本整備計画」に位置付けた8施設について、次のとおり、当時の活用方針と現状との比較を行い整理した。

咲くやこの花館のように現在も当時の活用方針通りに施設運営を行っているものもあるが、中には閉鎖中のものもあり、また、全般的に老朽化が進んでいる状況となっている。

表1 花博の主要8施設の現況

存置施設名	鶴見緑地基本整備計画での活用方針	経過	現状
国際陳列館	展示場、イベント会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上4階建ての建物で、1・2階部分は、環境局が「環境学習センター（生き生き地球館）」の本館として使用していたが、2013（平成25）年度末に供用廃止。</li> <li>地下1階の一部は花博協会に管理許可。</li> <li>地下2階は貸しホール「花博記念ホール」として運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>貸ホールについては、稼働率約3割。</li> <li>地上1・2階について、2014（平成26）年度にマーケットサウンディングを行うが提案なく、閉鎖中。</li> </ul> 
いのちの塔	展望タワー	<ul style="list-style-type: none"> <li>塔は公園のシンボル・ランドマークとして活用。</li> <li>1992（平成4）年に展望塔として再オープンしたが、赤字が続き、2009（平成21）年度末に供用廃止。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>閉鎖中。</li> <li>建物内壁の破損等を確認。</li> </ul> 
国際庭園 花栈敷・ 花の谷	花博の趣旨を表現するシンボルゾーンとしての記念庭園	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園施設として維持管理。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が進んでいる。</li> <li>国際庭園は、改修計画に基づき順次改修してきているが、全域にまでは至っていない。なお、一部寄附による改修も行っている。</li> </ul> 
咲くやこの花館	植物展示温室 イベント会場	<ul style="list-style-type: none"> <li>2006（平成18）年度から指定管理開始。</li> <li>総合植物館として運営。</li> <li>有料（500円/大人）。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>老朽化が進んでいる。特に設備関係については更新の必要性大。</li> <li>※近年、計画的に設備の更新・改修を進めている。</li> </ul> 
水の館	展示場及びスポーツ活動の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>西半分は鶴見スポーツセンターとして運営。</li> <li>東半分は貸しホール「ハナミズキホール」として運営。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備の老朽化が進んでいる。</li> <li>※近年、計画的に設備の更新・改修を進めている。</li> <li>貸しホールについては稼働率約5割。</li> </ul> 
政府苑	記念庭園（地上建物撤去）	<ul style="list-style-type: none"> <li>地上は庭園として整備して維持管理。</li> <li>地下室は存置。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>存置した地下室は、書庫、ボランティア控室、コスプレイベント時の更衣室等で利用。</li> </ul> 
迎賓館	国際交流・会議の場	<ul style="list-style-type: none"> <li>花博終了後、迎賓館として引き継ぐが、一般開放しこなかった。</li> <li>2010（平成22）年、活用方針を変更し、民活提案を公募して、結婚式場、パーティスペース等として運営。</li> <li>民間事業者へ管理許可。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者への管理許可（～2020年度末）。</li> <li>利用者が多く、事業者が新館を建設（設置許可）するなど継続的に投資。</li> </ul> 

## 2) 花博終了後に整備した施設等

鶴見緑地では花博終了後、「鶴見緑地基本整備計画」に基づき、花や緑や水といった豊かな自然の創出とともに、バーベキュー場等のアウトドア施設、スポーツ施設等の多様な施設を整備してきている。大阪市所管局ごとの施設や民間活力を導入して設置・管理している施設などの一覧及び整備年度は以下のとおりである。

表2 花博終了後に整備した施設等 (1/2)

所管	施設名(整備年)	現状	
建設局	バーベキュー場 (1994(H6))	<ul style="list-style-type: none"> <li>電気式バーベキュー設備10基(有料)、炭式バーベキュー設備30基(無料)などがあり、気軽なアウトドア施設として人気が高い。</li> <li>老朽化が進んでいる。</li> </ul>	
	キャンプ場 (1994(H6))	<ul style="list-style-type: none"> <li>テントサイト大2ヶ所、テントサイト小8ヶ所、野外炉10基、キャンプファイアールーム、洗い場などがある。利用料金は無料。</li> </ul>	
	パークゴルフ場 (2001(H13))	<ul style="list-style-type: none"> <li>3コース、27ホールで構成されている。</li> </ul>	
	乗馬苑 (1993(H5))	<ul style="list-style-type: none"> <li>馬術競技もできる西日本最大級の乗馬苑。屋外馬場、屋内馬場、厩舎等のほか、ポニー馬場や夜間用の照明灯なども完備しており、様々な大会にも使用されている。</li> </ul>	
	茶室 (1992(H4))	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本庭園内にある銅板葺・寄棟造りの本格的な茶室で、十畳の広間、三畳の小間、立礼席などを備えている。</li> </ul>	
	駐車場 (1995, 1997, 1998(H7, 9, 10))	<ul style="list-style-type: none"> <li>24時間入庫可能な駐車場を園内6ヶ所に設置。</li> <li>駐車台数は乗用車計2,133台、大型バス48台。</li> </ul>	
経済戦略局	鶴見緑地プール (1997(H9))	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通じて楽しめる流水プールや造波プール、ウォータースライダーなどがある。夏季には屋外エリアも供用されている。</li> </ul>	
	庭球場 (1992(H4))	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂入り人工芝コート12面、クラブハウス、夜間照明設備があり、硬式・ソフトテニスの練習や競技大会に利用されている。</li> </ul>	
	球技場 (1997(H9))	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール練習や競技大会会場として使用されている。約3,700席の観客席と夜間照明設備がある。</li> </ul>	
	第1運動場 (1997(H9)) 第2運動場 (2002(H14))	<ul style="list-style-type: none"> <li>サッカー、ラグビー、アメリカンフットボール、軟式野球、ソフトボール、運動会等に使用されている。第1運動場には夜間照明設備がある。</li> </ul>	

※写真出典：ミズノグループHP

表2 花博終了後に整備した施設等（2/2）

所管		施設名(整備年)	現状
市所管の公園施設	環境局	なにわECOスクエア (1998(H10))	<ul style="list-style-type: none"> <li>元は「環境学習センター（生き生き地球館）」の別館であった。現在は、環境学習講座の場や、NPOなどのプラットフォームとして利用されている。</li> </ul> 
		自然体験観察園 (1997(H9))	<ul style="list-style-type: none"> <li>里山や田舎風景を再現しており、主要施設は田、畑、池等で、田植えや稲刈り等が体験できる。</li> </ul> 
民間設置施設		温浴施設・ フィットネス施設 (2014(H26))	<ul style="list-style-type: none"> <li>民間事業者による温浴施設で、レストランやエステサロンなどもある。また、館内にはフィットネス施設が併設されている。</li> </ul> 
		フットサル場 (2014(H26))	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際規格サイズの屋外ロングパイル人工芝コート6面を完備したフットサル場。</li> </ul> 
		ドッグラン (2014(H26))	<ul style="list-style-type: none"> <li>常駐の管理スタッフがいるドッグラン施設。常設の保護犬譲渡会場「はぐくみユニット」が併設されている。</li> </ul> 
		あそび創造広場 (2016(H28))	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本初のコミュニティ型子ども向けホスピス「TSURUMIこどもホスピス」が運営されている。</li> </ul> 
		コンビニエンス ストア (2014(H26))	<ul style="list-style-type: none"> <li>鶴見緑地駅の東側に設置されたコンビニエンスストア。</li> </ul> 
国際機関等		UNEP国際環境技術 センター (公財)地球環境 センター (1994(H6))	<ul style="list-style-type: none"> <li>UNEP国際環境技術センターは、花博のレガシーとして、大阪市が、環境省と外務省の協力を得て誘致した施設で、大阪で唯一の国連機関である。</li> </ul> 

### 3) 管理運営の現況

鶴見緑地の大半の施設については、指定管理者制度を導入し民間事業者による管理運営を行っている。

駅前エリアを中心とした一部の施設については、民間事業者が公園施設の設置及び管理運営を実施する設置管理許可制度の適用により民間活力の導入を図っている。

各施設の事業期間は、鶴見緑地園地部や球技場等、スポーツセンター及びプールは2019（平成31）年度末、迎賓館は2020年度末となっている。

また、駅前エリアにおいて設置許可により実施している施設の事業期間は、「FUT MESSE 鶴見緑地」及びコンビニエンスストアが2033年度末、「湯元水春・B-fitスポーツクラブ」が2034年7月14日、「パートナードッグタウン」が2034年11月28日、「あそび創造広場」が2035年12月22日までとなっている。

表3 管理運営の現況

施設名	管理制度	管理運営期間	管理者
鶴見緑地※1、咲くやこの花館、パークゴルフ場、乗馬苑、野外卓、水の館ホール、陳列館ホール、茶室むらさき亭	指定管理者制度	2015(H27).4.1~2020.3.31	鶴見緑地スマイル5
鶴見緑地球技場、運動場、庭球場	指定管理者制度	2015(H27).4.1~2020.3.31	鶴見緑地スマイル5
鶴見スポーツセンター、鶴見緑地プール	指定管理者制度	2016(H28).4.1~2019(H31).3.31 ※2019(H31).4.1~2020.3.31の期間について、公募を実施し、右記事業者を継続して管理者として指名。	ミズノグループ
迎賓館	管理許可制度	2010(H22).8.2~2021.3.31※2	(株)レドゥ・グループ
湯元水春・B-fitスポーツクラブ (温浴施設・フィットネス施設)	設置許可制度	2014(H26).7.15~2034.7.14※3	(株)ビバーレコード
FUT MESSE鶴見緑地(フットサル場)	設置許可制度	2014(H26).4.1~2034.3.31※3	(株)MESSEコーポレーション
コンビニエンスストア	設置許可制度	2014(H26).4.1~2034.3.31※3	(株)ローソン
あそび創造広場	設置許可制度	2016(H28).4.1~2035.12.22※3	(一社)こどものホスピタリティプロジェクト
パートナードッグタウン(ドッグラン)	設置許可制度	2014(H26).12.13~2034.11.28※3	(一社)パートナードッグタウン協会
なにわECOスクエア、自然体験観察園	設置許可制度	—	環境局
UNEP国際環境技術センター、(公財)地球環境センター	開設区域外	—	環境局

※1 鶴見緑地の開設区域内のうち、各有料施設や設置管理許可区域を除いた範囲

※2 事業期間の終了後、約3ヶ月間を原状回復の期間とする。

※3 事業期間の終了後、約半年間を原状回復の期間とする。

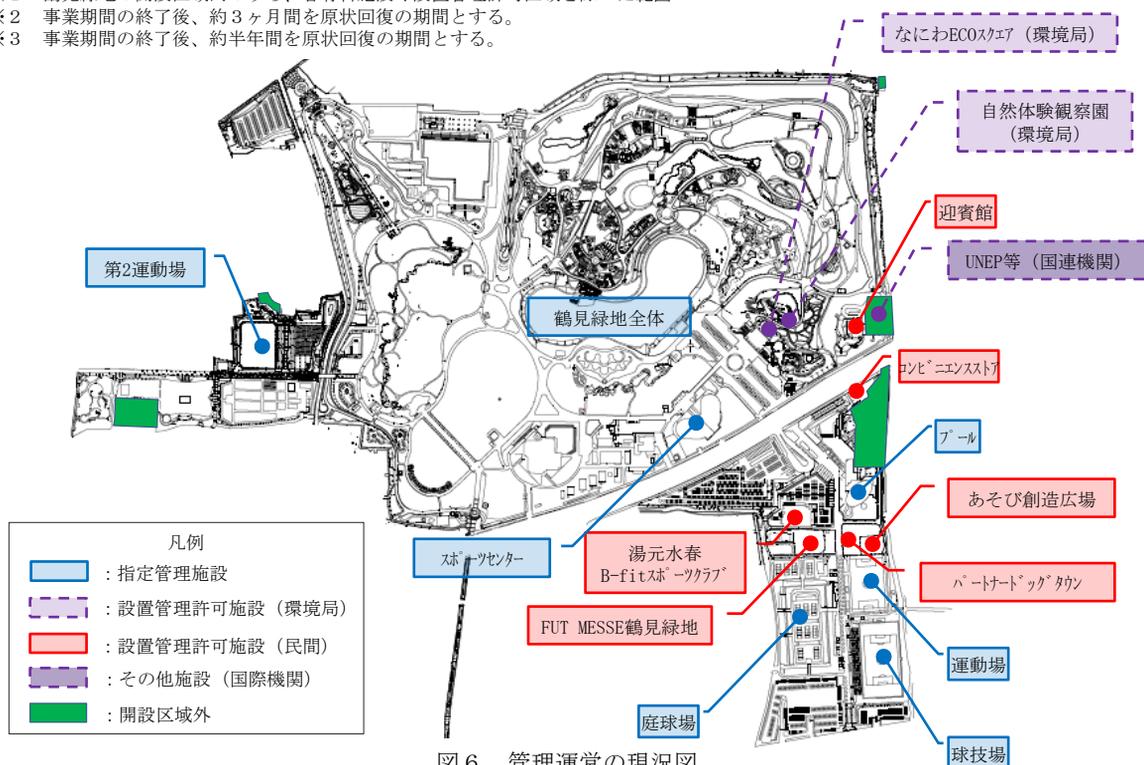


図6 管理運営の現況図